→高知県立県民体育館にて。試合後の磯谷くん。

インターハイ　レスリング　フリースタイル92kg級

5位入賞 磯谷 輝くん

第69回全国高等学校レスリング選手権大会が、8月1日から4日にかけて高知県立県民体育館で行われた。
本校から出場した磯谷輝くん(3-5)が、見事５位に入賞した。

↓赤が磯谷くん。

頑張ってきた成果が出た

「とても嬉しい。頑張ってきた成果が出た」と語る磯谷くん。試合前に掲げていた目標は、ベスト８に入賞すること。落ち着いていつも通りにやることを心がけた、と言う。

コロナ感染対策のため７月中旬は自主練習しかできない時もあった。ランニング中心になまらないように調整した。

初日に行われた学校対抗戦では、玉名工業高校相手に２対５で敗れた。磯谷くんは真正面に組んだ相手から首投げをされ、敗北。顧問の倉本先生の「横から攻めろ」というアドバイスが実践できなかった。

そこから磯谷くんのスイッチが切り替わった。個人戦では、自分のスタイルを貫き通す。

２回戦は接戦の末、左差しからの首投げでポイントを奪い、４対２で勝利。３回戦は優勢に試合を運び、ラスト10秒で追加点の末、８対１で勝利。準々決勝まで勝ち進んだ。対戦相手は栃木県代表、第２シードの猛者だ。開始20秒でローリングで連続得点を奪われた。「強かった。自分は普段はグレコローマンスタイルなので、フリースタイルの足への攻撃を防げなかった」と悔しそう。

次の目標は秋の国体だ。「３位入賞を目指します」と頼もしい。

今後のレスリング部の活躍を要チェックだ。

発行所
滋賀県立八幡工業高等学校新聞部
TELL 0748-37-7227
印刷所　ひがし印刷

～ 目 次 ～

2,3面：特集　座談会
3,4面：各科機器紹介
５面　：車特集第11弾
兄弟でスポーツカーをたのしむ
6,7面　とうきょう総文
8,9面　部長紹介
10面　機械工作部の活躍
八工写真館

特集：座談会

工業高校で学ぶという選択

各科に最新機器続々導入

大学進学、普通科志向が高まる昨今。

「勉強できないから工業高校に」は本当なのか。

「工業高校の良さ」はなんなのか。

工業高校ＯＢの本校先生方に座談会形式で話を聞く（特集２面に続く）。

また、本校各科には、今春たくさんの最新機器が搬入された。本紙２面の特集に続き、３面・４面にて、機械科・電気科・環境化学科に導入された機器を一挙紹介する。

最新機器導入の波は、全国の職業高校で起こっている。全国的にデジタル化に対応した産業教育装置の整備が進められているからだ。いわゆる「スマート専門校」の実現だ。

これらは令和２年度第３次補正予算において、職業系高校等におけるデジタル化に向けた産業教育装置の整備に関する予算が計上されたことによる。

設備刷新を受けて、本校の学びもどう改革されていくのか。新聞部記者が各科に取材に伺った。（３・４面に続く）

eスポーツ部夏の活躍　高校生eスポーツ大会「STAGE:0」

髙木歩くん　フォールガイズ惜しくも3位入賞ならず

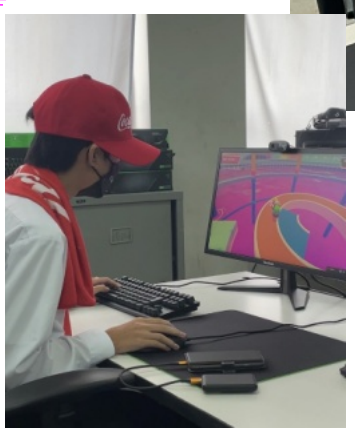
→大会公式キャップとタオルを身に着けプレイする髙木くん。

フォールガイズとは、ショーと言われるミニゲームをクリアし、勝ち残っていくバトルロイヤル形式のパーティゲームだ。髙木歩くん(1-4)は見事予選を通過し、8月14日にオンラインで行われた全国大会に臨んだ。GAME1でラスト２人に残ったが惜しくも敗れた。

しかし7月16日の予選突破までの髙木くんのフォールガイズプレイ時間は20時間程度。「たまたま勝てた」という驚きとともに、その後ガチモードに突入したという。全国大会までは一日７時間ほどプレイして技を磨いた。長年やっていたマインクラフトに操作が似ていたことが有利にはたらいたという。順調に勝ち進む髙木くんに、配信を家で見ていた家族一同は大興奮。お母さんは１回戦で応援し疲れて、後は寝ておられたそう。お父さんにも「すごかった」と賞賛してもらえたという。

次は来年のステージゼロでグランドファイナル出場を目指す。「移動速度が遅いなどのミスをなくし、練習を重ねて挑んでいきたい」と語った。

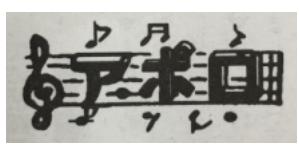
またヴァロラントで２回戦に進出するも敗れた川副翔大くん(1-4)は「来年こそは２回戦突破したい」と語る。顧問の三浦先生は「優勝チームと対戦して、悪くない闘いだった」と分析する。今後の活躍に期待大だ。（藤）


→画面はフォールガイズ

彦根市「赤祭り」イベント運営に参加

8月13日と14日にかけて行われた彦根市「赤祭り」に参加したeスポーツ部員達。子ども達とＸｂｏｘ(ｴｯｸｽﾎﾞｯｸｽ)をプレイするなど、運営にも携わった。来場者に案内やゲームの説明をしていた部長の上原ミシェルくん(2-3)は「喜んでもらえて嬉しかった。良い経験になった」という。

赤祭り　eスポーツ特設会場にてグランツーリスモをプレイする部員達→



過ぎたことをやり直したい、と思うことは少なくない。夜ベッドに入り、ふと今日の行動を振り返る。あぁ、あの時はこうやればもっと上手にできた。こう返事すればもっとウケたのに。こんな感じで、一人悶絶した経験はないだろうか。

もしタイムマシーンがあったら、あなたは過去か未来のどちらに行きたいと思うか。私は断然過去である。未来のことは今から変えられる。もし今勇気を出して決断すれば、未来はもっと良い方向へ向かうかもしれない。未来は今の延長線上にある。しかし、過去はいくら粘っても変えられない。

大変だったけれど、今思い返せばよい経験だった。飲み会で酔ったオジサンがよく言うセリフがある。しかし、それは本当に良い経験だったのだろうか。人間というのは、過ぎたものを美化する傾向にある。美化するということは、その時の行いに後悔が残っていることの証拠ではなかろうか。もしも、完全に満足する結果を得られたなら美化はしないだろう。必死に努力したのに、満足のいく結果が得られなかった。では、あの大変な努力になんの意味があったのか。そんな時に美化をすることで、あれは無意味ではなく有意義な経験だった、と考えるのだろう。オジサンの発言は、一種の防衛機制なのだ。

過去というのは、手の届かない遠い存在である。いまさら何かしても変わることはない。ならば、後から美化しなくていいように生きてみようと思う。しかしどんなに頑張っても、きっとベッドで悶絶することになるのだろう。そのベッドで悶絶した経験も、後から見たらいい思い出になったりしないだろうか。

人間というのは手の届かない存在に憧れるものだ。誰もが過去に戻りたいと思うだろうが、誰も過去には戻れない。過去は懐かしむことしかできない。英語の「present」には「贈り物」という意味の他に「現在」という意味がある。つまり、過去の自分からの贈り物が現在なのだ。

ここまで長々と語ったが、この文章に込めた思いは８文字。夏休みをもう一度。（川）